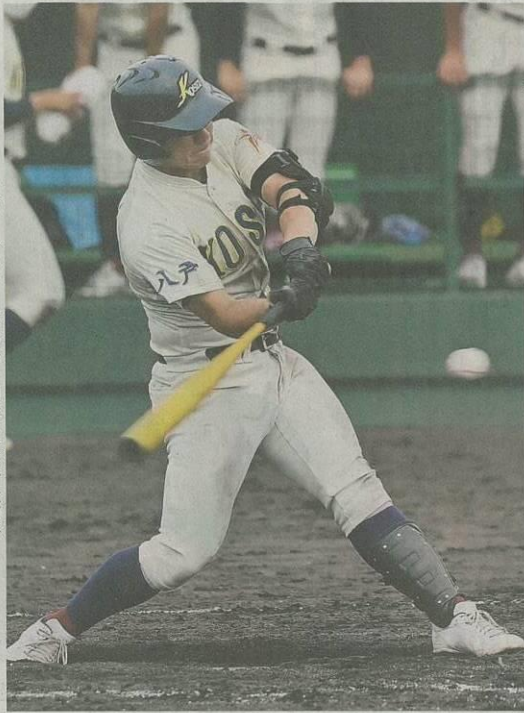


春季県高校野球選手権は最終日の24日、八戸市長根公園野球場で決勝と3位決定戦を行った。八工大一と八戸学院光星の「八戸対決」となった決勝は、八工大一が終盤までリードする展開となったが、八回に大量7点を奪った八学光星が10-5で逆

春季 県高校野球 最終日

転勝ちし、3年ぶり13回目の優勝を飾った。3位決定戦は、東奥義塾が八工大二に7-0でコールド勝ちした。上位2校に出場権が与えられる春季東北大会は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。（成田亮、斎藤義隆）

光星8回7点 逆転V



【決勝・八工大一―八学光星】8回裏、八学光星1死満塁、吉村の左前適時打で2者が生還、8-5とリードを広げる

吉村連続適時打流れ呼ぶ

八学光星
「流れを変えて」とい
主簿権が奪えず、もど
かしい展開が続いた八学
光星の中盤、仲井監督に
そう言われて送り出され
た背番号3の吉村は、人
一倍気合が入っていた。
スタメンではなく、途
中出場。序盤から光星打
線を苦しめた八工大一の
右横手投げ・村木の投球
をベンチで観察、出番に
備えた。七回2死一、二
塁では直球を一振り。一
時は同点となる適時打を
放ち、気持ちよくなった。
八回。1点をリードし、
なおも迎えた1死満塁の
絶好機。「上からたたく」
イメージを醸成させ、右
打席に立った。2球目の
甘く入ったスライダーを
引く張り、左前へ。試合
を決定づける貴重な2点
適時打にベンチは沸い
た。
計3打点。「初戦から結
果が出ていなかったため
気持ちが入っていた」と
決定的な仕事を果たし、
満足そうに振り返った。
「1点差を知ることがで
いたからこそ、勝つこと
の大きさを覚えている。こ
うな試合を前向きに
捉えた。昨年の秋に続く
優勝と自信をみなぎら
せた。」
（成田亮）